

# ダイカンドラ草生でミカンの果実糖度を高めよう

## 概要

急傾斜ミカン園で被覆植物‘ダイカンドラ’の草生栽培を行うと、土壤乾燥を促進し、省力・低コストで果実糖度を高めることができます。



草生栽培の様子  
(被覆率 80%)



ダイカンドラの草  
姿(湿潤時)



同左(かん水適期:過  
半数が萎れた時)

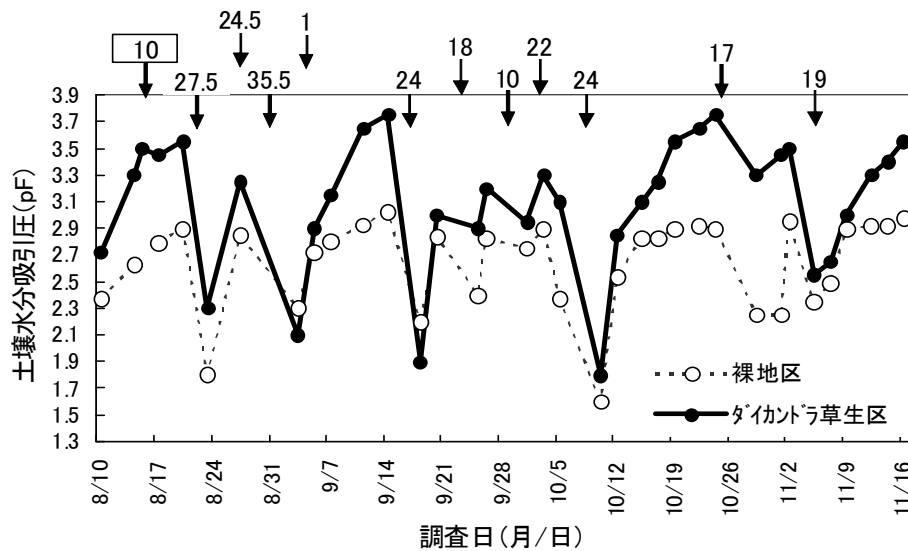


収穫期の樹姿

土壤乾燥

糖度の向上

## 土壤の乾燥程度



ダイカンドラ草生区では、土壤水分吸引圧 pF2.9 以上の強い土壤乾燥が裸地区よりも長期間続きます。

図1 夏秋期の土壤管理の違いが土壤水分吸引圧に及ぼす影響  
注) 主幹から0.3m離れた土壤深10cmを1区当たり2点測定した平均値。  
↓: 降雨量 (mm), ダイカンドラ草生区のかん水は□で囲む。

## 効果

果実糖度は 12 度以上に向上(裸地に比べて 0.7~2.3 度上昇)

表1 ダイカンドラ草生が温州ミカンの収量および果実品質に及ぼす影響(2007年)

品種 (樹齢・土壤)	処理区	収量 <sup>Z</sup> (kg/m <sup>3</sup> )	果重 (g)	糖度 (° Brix)	酸度 (%)
‘石地’ (4年生・花崗岩)	ダイカンドラ草生	8.6a <sup>Y</sup>	80.6a	12.3b	0.80ab
	裸地	9.3a	82.6a	11.6a	0.76a
	透湿性反射シート	10.6a	88.3a	12.6b	0.84b
‘興津早生’ (11年生・流紋岩)	ダイカンドラ草生	28.5a <sup>W</sup>	106.0a	12.8b	1.23b
	裸地	27.6a	108.0a	10.5a	0.99a

<sup>Z</sup> 樹容積当たりの収量

<sup>Y</sup> Tukey-Kramerの多重検定により異符号間に5%水準で有意差あり。

<sup>W</sup> T検定により異符号間に5%水準で有意差あり。

## 留意点

7~8月の少雨時は、酸高防止のために、適期(ダイカンドラの過半数が萎れた時点)に 10mm かん水を行う